



火山灰で都市機能がマヒ

BREAKING  
NEWS

年内に指針の取りまとめに向けて議論が始まる！

**富士山噴火による首都圏の降灰対策！**

政府は 7 月 26 日、富士山の大規模噴火で首都圏に降り積もることが想定される火山灰の対策についての有識者検討会の初会合を開催しました。

火山灰の降灰によって、鉄道の運休や広範囲で停電が発生するなど、都市機能のマヒが想定されています。

今後、検討会で議論を行い、具体策など年内にも指針を取りまとめる方針で進められます。



地震大国の日本において、今後、首都直下地震や南海トラフ地震などの大地震が想定されている中、地震の発生が火山活動を誘発させ、噴火へとつながることも否めません。地震や津波だけでなく、人体にも影響を及ぼす火山噴火の想定や避難等の備えも考えなくてはなりません。

降灰によって鉄道は最も影響を受けやすく、0.5mm 程度積もると、通電不良が生じ、信号や踏切の動作不良によって運休の可能性が言われています。

**首都圏で生活と仕事をする私たちにとって切り離せない重要な課題です！**

気象庁は、富士山の大規模噴火の際、首都圏に大量の火山灰が降る事態に備えて、広範囲・長時間の降灰を予測する「広域降灰予報」導入方針を固めたことを報じました。

富士山は、約 300 年前の「宝永噴火」を最後にして、いつ噴火してもおかしくない状況だと言われています。

火山灰の降灰が約2週間続くと、神奈川・山梨県などで木造家屋が倒壊する可能性 30cm 以上、都心でも 10cm 程度と試算されています。車の通行への支障や鉄道の運行停止、停電の発生等が想定されるため、家や職場での備えもつくり出さなくてはなりません。

検討に向けて加速！政府の「有識者検討会」に続き、  
富士山の大規模噴火に備えて、気象庁が  
「広域降灰予測」導入の方針を固める！